

顔認証システム実証実験[防災/見守り](あらおスマートシティ推進協議会)

■都市課題

近年の大規模自然災害の増加や登下校途中での見守り対応に対してマンパワー不足等の荒尾市の社会問題に対して「安全安心なまちづくりに繋がるシステムの構築」を目指す。

■解決方策

「顔認証システム」の仕組みとマイキープラットフォーム(MKPF)やデータ連携基盤(都市OS)を使ったデータ利活用を実現し、ウェルビーイングな快適未来都市を創造する。

■KPI

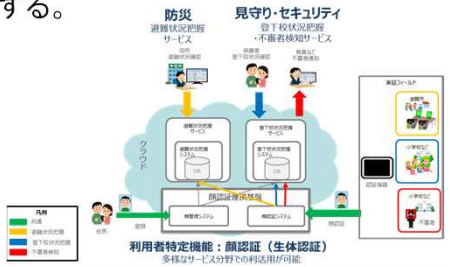
- ①災害が起きたとき不安であると感じる市民の割合 (R4:26.7%)
- ②教育環境が整っていないと感じる市民の割合 (R4:17.0%)

■実証実験の概要・目的

「顔認証システム」を使って避難所での受付や児童登下校見守りなどを中心とした実証実験を行うことで、課題の抽出・改善検討・実証結果分析を図り、2023年度(令和5年度)から段階的に実装・運営を行っていくことを目指す。

■実証実験の内容

- ①データ連携基盤(顔認証連携基盤)、共通ID、顔データなどを活用した複数サービス実現
顔認証機能・ユーザー管理機能をもつ顔認証連携基盤を活用し、利用者は顔画像およびユーザー情報の登録からサービスの活用まで、運用者は登録データ管理についての仮説に基づく検証を行い、技術的有用性と社会的受容性を検証する。
- ②セキュリティ/見守り:手ぶらで可能な顔認証による行動見守り
小学校の教職員にとっての不審者検知を自動化する仕組みと小学校に通う児童の家族・教職員にとって登下校状況の可視化の有用性や課題を調査・分析する。
- ③防災:顔認証による避難所逃げ遅れ管理
災害時に家族などが安全であるか分かるサービスの社会受容性を調査する。また、災害時の避難所において、顔認証機能を活用した受付業務を実施することで、避難状況のリアルタイムでの把握や、避難所の運営の効率化ができるかについて、実際の避難訓練において紙ベースでの通常受付と比較しながら調査する。



■実証実験で得られた成果・知見

- ①顔認証連携基盤、共通ID、顔データなどを活用した複数サービス実現
・顔認証機能・ユーザー管理機能をもつ顔認証連携基盤を活用し、利用者自身が一度登録したデータを複数のサービスで利用制御可能であることを確認した。
- ②セキュリティ/見守り:手ぶらで可能な顔認証による行動見守り
・保護者の88%が見守りサービスの利用が登下校時の児童の状況把握につながると回答があった。
・体の温度測定を同時に行うことで体温チェック忘れの児童の教職員対応が軽減されるが、業務効率化を達成するには、改善が必要な結果が得られた。
- ③防災:顔認証による避難所逃げ遅れ管理
・受付人数の即時反映に加え、複数箇所の避難状況も確認できることで、逃げ遅れ住民の把握につながる。
・紙での受付に比べ、顔認証での受付は約63%(平均1分14秒)の時間削減効果がある。

■今後の予定

	2022年度(R4)	2023年度(R5)	2024年度(R6)
マイキーPF連携での運用検証		顔認証機能、顔管理機能のデータ連携基盤、都市OSへの組み込み実装	
他分野への横展開検討		段階的に実装・運営	本格運営